

1. 研修の概要

・研修期間は 3 年 9 か月とする。

・研修領域の特徴

幅広い研修の選択肢と魅力ある病院群で、一人ひとりに合った研修が可能であることが特徴である。

・研修期間の設定

それぞれの研修病院での研修期間は、研修修了時に修得すべき領域の単位をすべて修得していれば専攻医毎に自由に設定することが可能である。

2. 研修領域と修得すべき単位数

修得すべき領域と単位（1 か月 1 単位）の詳細は以下の通りとする。

分野		必修単位数
a	脊椎・脊髄	6
b	上肢・手	6
c	下肢	6
d	外傷	6
e	リウマチ	3
f	リハビリテーション	3
g	スポーツ	3
h	地域医療	3
i	小児	2
j	腫瘍	2
k	流動単位	5
合計		45

3. 研修に関する規定・要件

1) 単位認定に関するルール

・流動単位の扱い

流動単位は、a から j の領域から必修単位とは別に自由に選択できる。

・地域研修の目的

地域研修は、専攻医が大規模な病院以外で地域に密着した医療を経験することと、専攻医の都市部偏在を回避することが目的である。

・単位の按分

1 病院で研修可能な分野が複数ある場合は、研修期間及び研修実態に応じて按分する。例えば、脊椎・脊髄、外傷分野の研修病院に 1 年間勤務した場合は、脊椎・脊髄 6 単位、外傷 6 単位を認定、上肢・手、リウマチ分野の研修病院に 1 年間勤務した場合は、上肢・手 8 単位、リウマチ 4 単位を認定する。

・C 判定領域の扱い

各項目の C 判定領域は、正確な知識を持つべき領域として、実際に経験修得できなくても Teaching

付属資料 6 研修方略

file、カンファランス参加、講演受講、e ラーニング等の知識で修得することも可とする。

2) 手術手技の要件

・経験症例数

手術手技は 160 例以上を経験すること、そのうち術者としては 80 例以上を経験すること。

・対象疾患

術者として経験すべき症例については、別添する資料 3：整形外科専門研修カリキュラムに明示した（A：それぞれについて最低 5 例以上経験すべき疾患。B：それぞれについて最低 1 例以上経験すべき疾患。）疾患のなかのものとする。

3) 指導体制の要件

・専攻医の受け入れ上限

1 名の指導医が指導可能な専攻医は 3 名以内とする。

・指導医の配置

研修病院には、原則として常勤の指導医がいることを必須とする。ただし、地域医療を研修する医療機関には、常勤指導医がいなくても、専門医研修プログラム管理委員会が指定した指導医と密接な連携を取って研修をした場合は単位として認定する。

4. 研修プログラム例と対象領域

医療機関	研修可能な研修領域
基幹施設	脊椎・脊髄、上肢・手、下肢、リウマチ、リハビリテーション、スポーツ、小児、腫瘍
A 病院	上肢・手、外傷、リウマチ、リハビリテーション
B 病院	脊椎・脊髄、下肢、リウマチ、リハビリテーション
C 病院	脊椎・脊髄、上肢・手、下肢、外傷、リハビリテーション、スポーツ
D 病院	脊椎・脊髄、上肢・手、下肢、外傷、リハビリテーション
E 病院	脊椎・脊髄、下肢、外傷、リハビリテーション
F 病院	脊椎・脊髄、上肢・手、下肢、外傷、リハビリテーション、スポーツ
G 病院	上肢・手、下肢、外傷、リウマチ、リハビリテーション
H 整形外科	外傷、地域医療
I 地域医療機関	地域医療
J 病院	脊椎・脊髄、上肢・手、下肢、リハビリテーション、小児

5. ローテーション例

医療機関	1 年目		2 年目		3 年目		4 年目	
基幹施設	専攻医 1、2、3		専攻医 4、5、6					
A 病院			専攻医 5		専攻医 6	専攻医 4		
B 病院			専攻医 2					
C 病院	専攻医 4				専攻医 3		専攻医 2	
D 病院	専攻医 5				専攻医 4		専攻医 1	
E 病院	専攻医 6						専攻医 5	
F 病院			専攻医 1				専攻医 6	
G 病院			専攻医 2		専攻医 1	専攻医 3		
H 整形外科			専攻医 1		専攻医 2		専攻医 3	
I 地域医療機関			専攻医 6		専攻医 5		専攻医 4	
J 病院			専攻医 3					

ローテーションの決定方法

- 1) 整形外科専門研修プログラム管理委員会は、採用者が決定した時点で、研修施設・研修時期などのローテーションにおける選択肢を提示する。
- 2) 採用者は、選択肢の中から順位をつけて希望を提出する。
- 3) 整形外科専門研修プログラム管理委員会において調整し、最終的なローテーションを決定する。

6. 専攻医修得単位合計例

分野		専攻医①	専攻医②	専攻医③
a	脊椎・脊髄	6	6	6
b	上肢・手	6	6	6
c	下肢	6	6	6
d	外傷	6	6	6
e	リウマチ	3	3	3
f	リハビリテーション	3	3	3
g	スポーツ	3	3	3
h	地域医療	3	3	3
i	小児	2	2	2
j	腫瘍	2	2	2
k	流動単位	5	0（研修休止）	2（研修休止）
合計		45	40	42